

8/2~4

千葉県富津市でハイキングや潮干狩りを体験！ さかい元気っ子クラブ「シーサイドキャンプ」を実施

町内の小学校5・6年生を対象に、夢を持ったたくましい子どもを地域で育てることを目的とした「さかい元気っ子クラブ」では、千葉県富津市宮キャンプ場において、5年生の参加によるシーサイドキャンプを実施しました。天候には恵まれませんでした、鋸山・日本寺ハイキングや海水浴、潮干狩りをしました。野外炊飯では、カレーコンテストを行い、班ごとのカレーにそれぞれ隠し味を入れて、どのカレーが一番美味しいかを競い、りんごとはちみつを隠し味とした班が優勝しました。

参加した77名（5年生）の子ども達は、日常生活では経験することのできない野外炊飯やテント生活などを体験し、一段とたくましくなりました。

境町高校学生会クローバーもボランティアスタッフとして参加し、クラブ生をサポートしました。



町内の小学5年生77名がシーサイドキャンプに参加しました

カレーコンテスト優勝チーム
隠し味はりんごとはちみつバーベキューやカレー作りなど
野外炊飯を経験

静小学校 5年
宇都木 ひなのさん

シーサイドキャンプではたくさんの思い出ができました。海は波が強く、はじける波しぶきがとても気持ち良かったです。夜はテントに泊まりました。友達と協力しながら楽しく過ごし、友情を深めることができました。部屋長の仕事も、責任をもってがんばりました。忘れられない3日間となりました。



境町高校生会 CLOVER
みなみ
会長 木村 美波さん

去年の反省点として、事務局の指示を待つことが多く自分達から動くことができませんでした。今年は積極的に行動するため、何度も打合せを行い、ボランティアに臨みました。クラブ生とは班活動や野外炊飯を通して、仲良くなることができ、私自身も楽しむことができました。協力することの大切さを改めて感じた3日間でした。

8/7

広域避難計画策定へ 東京大学片田教授を委員長に 調査研究委員会を発足

町は、平成27年9月の関東・東北豪雨災害時の被害を検証するとともに、町民の広域避難に向けた行動計画を策定するため、防災研究の第一人者である東京大学片田教授を委員長とする調査研究委員会を発足しました。

この委員会は、調査・研究を地方自治研究機構と共同で行い、調査結果の報告・諮問先である委員には、住民代表のほか、国交省利根川上流河川事務所や茨城県境工事事務所などの担当者も入っています。

関東・東北豪雨災害の際、町は広範囲に浸水被害を受け、標高の低さから、利根川が氾濫した場合には町内の大部分が浸水することが予測されています。そのため、大規模な豪雨災害が発生すれば市町村をまたいだ広域避難が必要になるとして、調査・研究を行うこととしたものです。片田教授は「町の向かうべき防災の方向性を町民の皆さんと一緒に考えていきたい」と話しました。



橋本町長と握手を交わす東京大学片田敏孝教授（写真左）



調査研究委員会の皆さん



フィリピン共和国 マリキナ市 in 境町

動き始めた姉妹都市交流



マリキナ市へ寄贈予定の消防車両



利根川でエアポート試乗を楽しむ一行



サントス主席秘書官

「双子の都市として関係を深めたい。そのために最大限の協力をしていきたい。」と相互関係の発展に意欲を示していました。

マリキナ市来日。町の魅力や日本文化を紹介

今年5月に境町と姉妹都市交流協定を結んでいるフィリピン共和国マリキナ市からサントス・ポンシアニト首席秘書官のほか、クラウンデイト・パール法律顧問弁護士夫妻が境町を訪れました。

今回の訪問は7月16日に開催した利根川大花火大会観覧にあわせて初めて来町され、翌17日にはマリキナ市やマリキナ市立大学との英語教育やインターンシップに関する協議、マリキナ市への消防車両の寄贈などについて懇談し、これらの実現に向けて今後も協議をすすめて行くことを確認しました。また、スマート水素ステーションや人工芝サッカー場の視察、エアポートとセグウェイ試乗を体験されました。この他にも三味線演奏の観覧や茶道体験など、日本古来の文化にもふれられました。



通訳として参加した国際交流友の会「さ・か・い」の肥後会長



茶道体験でお世話になった表千家の皆さん（小野里邸にて）



三味線の演奏を披露するゆきじ会の皆さん